

(環境確保条例第118条の2)

土壌汚染情報公開台帳

整理番号	112-04-02	調製年月日・契機	令和5年2月20日	・ 第116条第1項第1号	
所在地	世田谷区奥沢六丁目59番6号 (地番)		世田谷区奥沢六丁目31番1号 (住居)		
訂正年月日・契機					
工場又は指定作業場の名称 (土地の改変に係る事業の名称)	青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所		面積	199.78 m ² (汚染地)	324.28 m ² (調査)
汚染状況調査の方法に関する特記事項					
当該土地において講じられた健康被害の防止又は 周辺地下水汚染拡大の防止のための措置がある場合は、その内容					
当該土地に第122条第1項第2号の土壌がある場合は、その旨 (汚染の原因が水面埋立材に由来する場合は、その旨)					
当該土地が第54条第3項第1号に該当する場合は、その旨	表中1の項下欄(溶出量基準超過かつ周辺で地下水の飲用あり)に該当				
当該土地が第55条第3項に該当する場合は、その旨					
当該土地が土壌汚染対策法の規定に基づき要措置区域又は形質変 更時要届出区域に指定された区域を含む場合は、その旨					
備考					
土壌の汚染状況	報告受理年月日	特定有害物質の種類	適合しない基準項目		汚染状況調査の受託者
	令和5年1月16日	ベンゼン	含有量基準・溶出量基準・ 第二溶出量基準		グリーンサーチ株式会社
			含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		

特定有害物質の使用、排出等の状況

業種及び主要製品	ガソリンスタンド ガソリン販売
特定有害物質の種類、使用目的、使用形態等	ベンゼン（ガソリン成分） 鉛及びその化合物（ガソリン成分）
特定有害物質の使用状況	ベンゼン（総量不明） 使用期間：昭和42年～令和4年 鉛及びその化合物（総量不明） 使用期間：昭和42年～昭和60年
	使用期間 昭和42年～令和4年
特定有害物質の排出状況	ガソリンの販売を行っていた。 油製品の漏洩履歴はなく適切に管理されていた。 バッテリー液の交換作業は実施していない。
特定有害物質の使用場所等	△別紙（ 1 ）のとおり
地下施設の有無及び概要	有 30KL地下タンク；1基（ハイオク10KL、レギュラー10KL、軽油5KL、灯油5KL） 10KL地下タンク；3基（水張廃止） 2KL地下タンク；1基（廃油）
地表の高さの変更及び地質に係る情報	無
土壤汚染対策法又は条例に基づく調査及び措置の履歴	平成21年8月4日 第116条1項 土壤汚染状況調査報告書
既往調査及び措置に関する情報	土壤ガスBz；不検出 鉛及びその化合物；溶出量、含有量共に基準適合
その他特記事項	

備考 1 別紙が2枚以上となる場合は、それぞれに番号を付けること。

2 △印の欄には、報告書に添付する各別紙に一連番号をつけた上、該当する別紙の番号を記入すること。

3 この様式各欄に記入しきれないときは、図面、表等を利用すること。

青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所
土壌汚染状況調査報告書

令和 5 年 1 月

調査実施者（指定調査機関）：グリーンサーチ株式会社

1 調査概要

1.1 事業場の名称

青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所

1.2 事業場の所在地

(住居表示) 東京都世田谷区奥沢6丁目31-1 (所在地は図1参照)

(地番) 東京都世田谷区奥沢六丁目59番6

1.3 事業場の面積及び調査対象面積 (㎡)

敷地面積 : 324.28 ㎡

1.4 調査目的

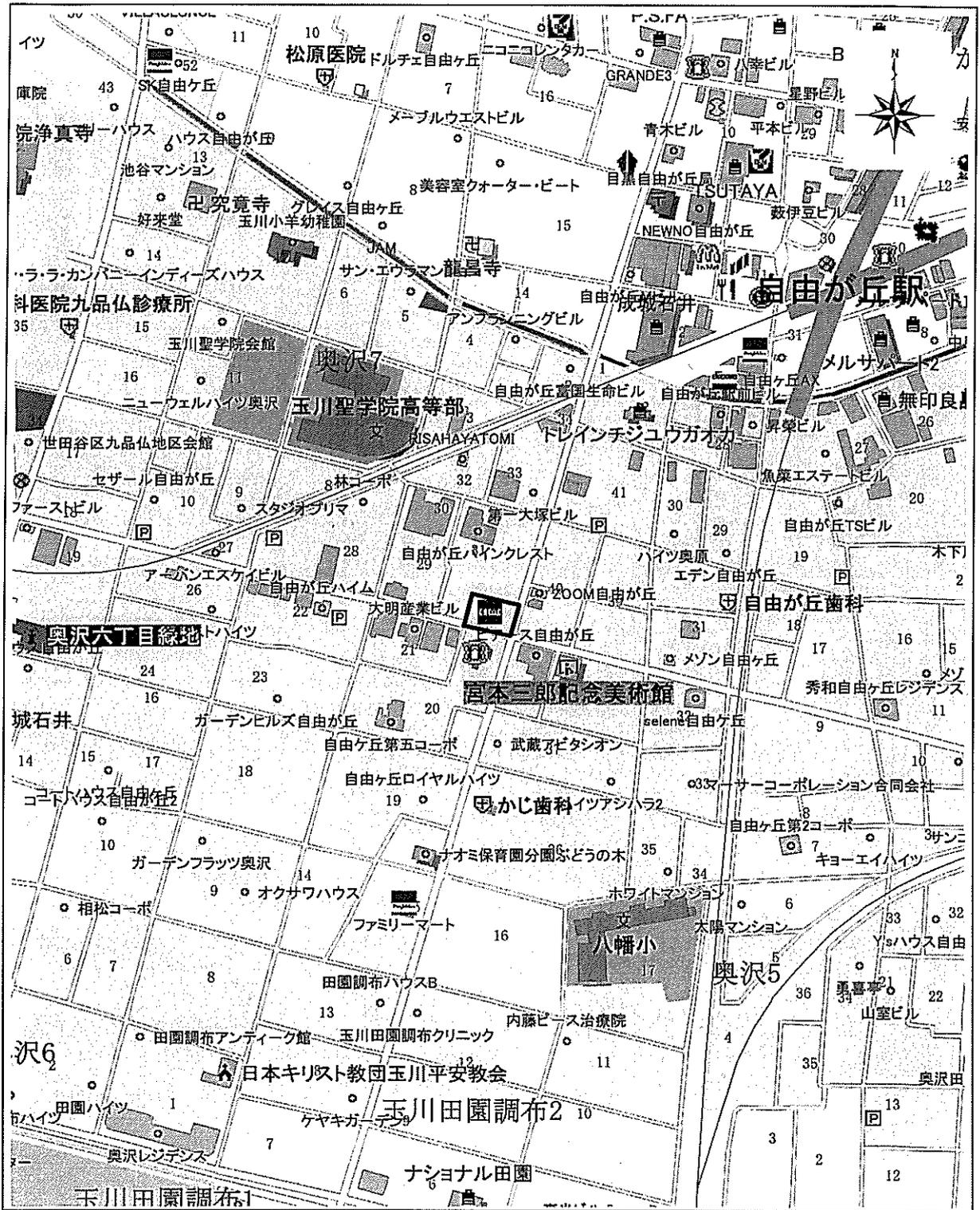
東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」第116条に基づくガソリンスタンドの廃止時について、東京都土壤汚染対策指針(平成31年東京都告示第394号)に基づき土壤の汚染状況調査を実施した。

1.5 指定調査機関等

- ・ 土壤汚染状況調査を行った指定調査機関
グリーンサーチ(株)
指定調査機関指定番号 : 2003-3-2078
所在地 : 東京都品川区東品川3-32-34
電話番号 : 03-5769-2210
技術管理者 : ██████████ (技術管理者証交付番号 : 第 ██████████ 号)
- ・ 土壤ガス測定を行った機関
グリーンサーチ(株)
所在地 : 埼玉県さいたま市西区三橋6-70
- ・ 土壤分析を行った機関
グリーンサーチ(株)
登録番号 : 埼玉県 第597号
事業区分 : 濃度
所在地 : 埼玉県さいたま市西区三橋6-70
計量管理者 : ██████████

1.6 調査期間

- ・ 令和4年10月19日 : 土壤ガス試料採取・測定
- ・ 令和4年10月20日～令和4年10月21日 : 土壤試料採取
- ・ 令和4年10月24日～令和4年11月21日 : 土壤分析



: 調査対象地

©2022 ZENRIN co. LTD. (Z22BB 第 3542 号)

図 1 調査対象地周辺図

2 調査対象物質の選定

別紙の「特定有害物質の使用、排出等の状況」により、次の物質を調査対象物質として選定する。

- ・ベンゼン
- ・鉛及びその化合物

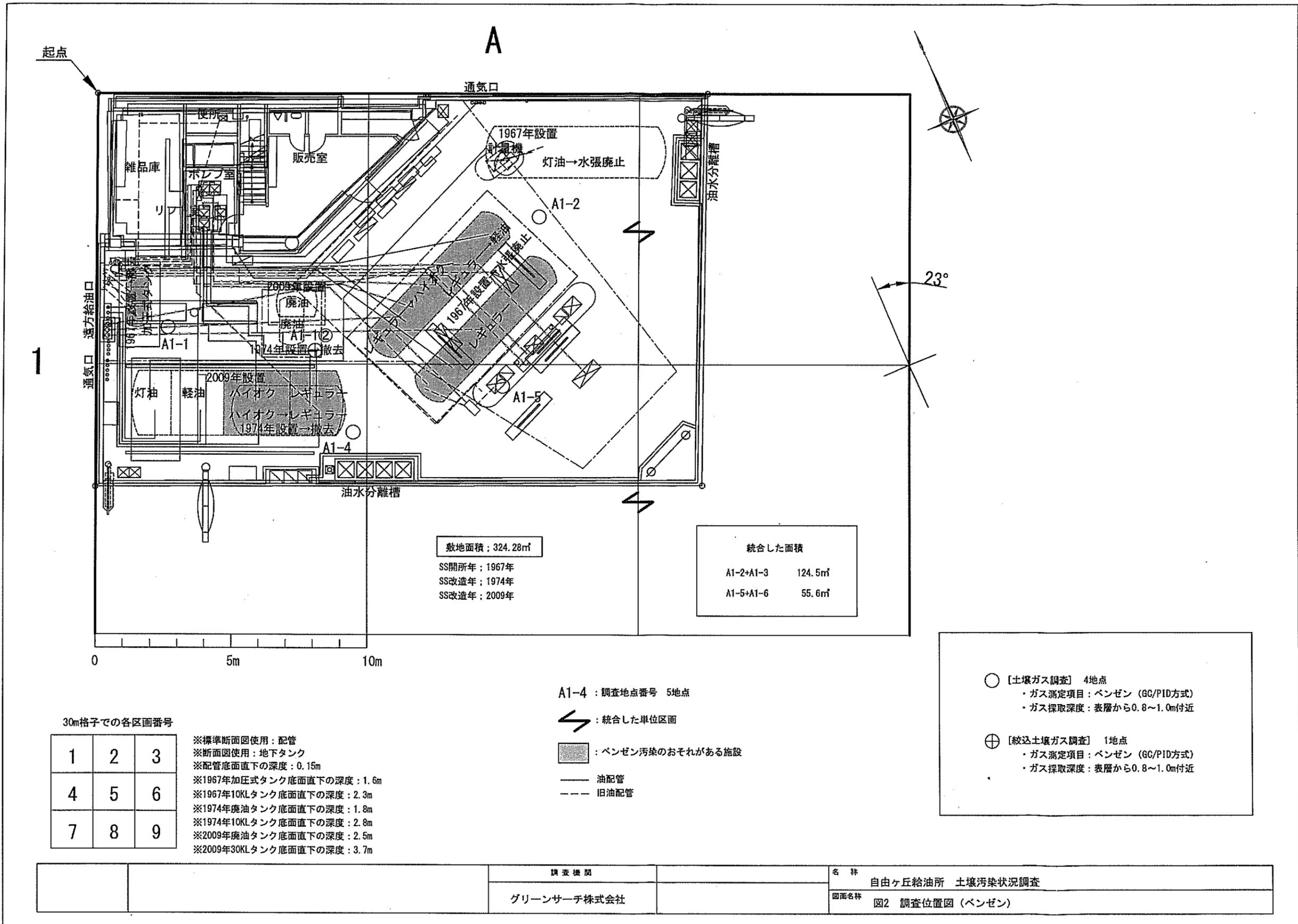
3 単位区画・調査位置の設定

調査は、東京都土壤汚染対策指針に基づき、敷地全体を第一調査区分地と判断した。

対象地の最北端（真北）を起点として、東西方向及び南北方向に10m間隔で引いた線を右回りに23°回転させて、対象地を単位区画に区分した。なお、隣接する区画の合計面積が130m²以下であり、統合した場合の区画の長軸が20mを超えない複数の区画は、1つの区画に統合した。このような設定により区画設定を行った計4区画を第一調査区分区画とした。

ベンゼンの調査位置はガソリンの油配管、地下タンク付近、鉛の調査位置は、かつて有鉛ガソリンを使用した油配管、地下タンク付近とし、総合的に判断して土壤汚染のおそれが最も多いと想定される地点とした。また現地にて地下埋設物探査を行い、地下埋設物を考慮した地点とした。

単位区画・調査位置の設定を図2、図3に示す。



敷地面積 ; 324.28㎡
 SS開所年 ; 1967年
 SS改造年 ; 1974年
 SS改造年 ; 2009年

統合した面積
 A1-2+A1-3 124.5㎡
 A1-5+A1-6 55.6㎡

30m格子での各区分番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

※標準断面図使用 : 配管
 ※断面図使用 : 地下タンク
 ※配管底面直下の深度 : 0.15m
 ※1967年加圧式タンク底面直下の深度 : 1.6m
 ※1967年10KLタンク底面直下の深度 : 2.3m
 ※1974年廃油タンク底面直下の深度 : 1.8m
 ※1974年10KLタンク底面直下の深度 : 2.8m
 ※2009年廃油タンク底面直下の深度 : 2.5m
 ※2009年30KLタンク底面直下の深度 : 3.7m

A1-4 : 調査地点番号 5地点

⚡ : 統合した単位区画

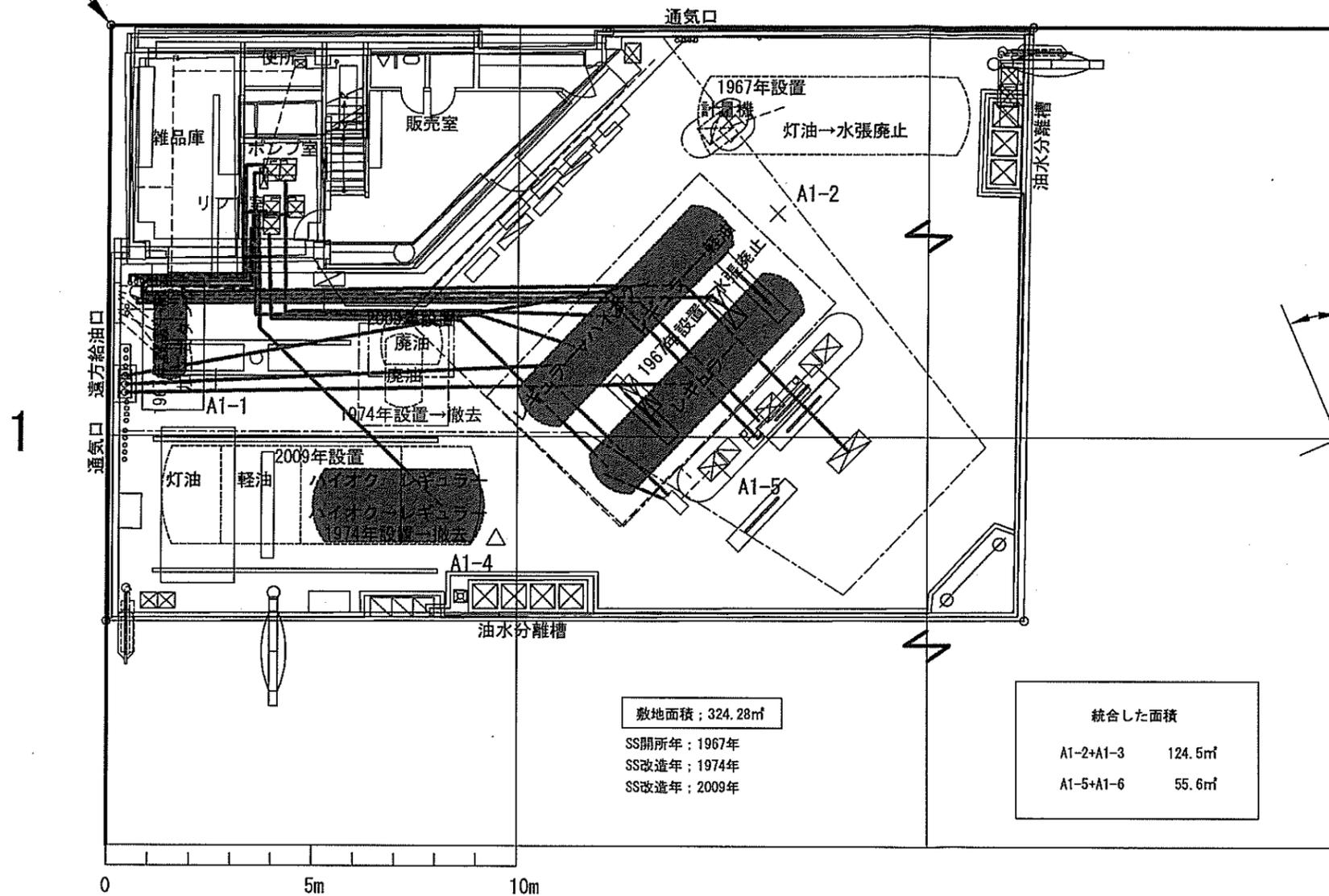
■ : ベンゼン汚染のおそれがある施設
 — 油配管
 - - - 旧油配管

- 【土壌ガス調査】 4地点
 ・ガス測定項目 : ベンゼン (GC/PID方式)
 ・ガス採取深度 : 表層から0.8~1.0m付近
- ⊕ 【校込土壌ガス調査】 1地点
 ・ガス測定項目 : ベンゼン (GC/PID方式)
 ・ガス採取深度 : 表層から0.8~1.0m付近

調査機関		名称
グリーンサーチ株式会社		自由ヶ丘給油所 土壌汚染状況調査
		図面名称
		図2 調査位置図 (ベンゼン)

起点

A



- +

【土壌調査】(旧配管・1967年加圧式タンク考慮区画)

A1-1

 - ・分析項目：鉛(含有量・溶出量)
 - ・採取深度：0～0.05mおよび0.05～0.5mを均等混合
 - : 0.15～0.65mを均等混合
 - : 1.6～2.1mを均等混合

- ×

【土壌調査】(旧配管・1967年10KLタンク考慮区画)

A1-2, A1-5

 - ・分析項目：鉛(含有量・溶出量)
 - ・採取深度：0～0.05mおよび0.05～0.5mを均等混合
 - : 0.15～0.65mを均等混合
 - : 2.3～2.8mを均等混合

- △

【土壌調査】(旧配管・1974年10KLタンク考慮区画)

A1-4

 - ・分析項目：鉛(含有量・溶出量)
 - ・採取深度：0～0.05mおよび0.05～0.5mを均等混合
 - : 0.15～0.65mを均等混合
 - : 2.8～3.3mを均等混合

敷地面積 ; 324.28㎡

SS開所年 ; 1967年
SS改造年 ; 1974年
SS改造年 ; 2009年

統合した面積

A1-2+A1-3 124.5㎡
A1-5+A1-6 55.6㎡

30m格子での各区画番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- ※標準断面図使用：配管
- ※断面図使用：地下タンク
- ※配管底面直下の深度：0.15m
- ※1967年加圧式タンク底面直下の深度：1.6m
- ※1967年10KLタンク底面直下の深度：2.3m
- ※1974年廃油タンク底面直下の深度：1.8m
- ※1974年10KLタンク底面直下の深度：2.8m
- ※2009年廃油タンク底面直下の深度：2.5m
- ※2009年30KLタンク底面直下の深度：3.7m

A1-4 : 調査地点番号 4地点

⚡ : 統合した単位区画

■ : 鉛汚染のおそれがある施設

--- : 旧油配管

調査機関		名称
グリーンサーチ株式会社		自由ヶ丘給油所 土壌汚染状況調査
		図面名称
		図3 調査位置図(鉛及びその化合物)

4 調査方法

試料採取方法および測定方法は次の方法で実施した。なお、土壌ガス測定は現地において実施した。

【ベンゼン】

- 調査方法 : 土壌ガス調査
- 調査地点 : 5地点 (4地点+絞込1地点)
- 採取方法 : 東京都土壌汚染対策指針並びに土壌汚染対策法施行規則第6条第2項に基づき実施した。
- 測定方法 : 平成15年3月6日環境省告示第16号で定める方法
- 定量下限値 : 0.05volppm
- 採取深度 : 地表から0.8~1.0m

【鉛及びその化合物】

- 調査方法 : 表層土壌調査
- 調査地点 : 4地点
- 採取方法 : 東京都土壌汚染対策指針並びに土壌汚染対策法施行規則第6条第3項、第4項に基づき実施した。
- 試験方法 : 平成15年3月6日環境省告示第18号・19号に定める方法
土壌溶出量基準 = 0.01mg/L以下
土壌含有量基準 = 150mg/kg以下
- 採取深度 : 0.0~0.05mおよび0.05~0.5mを均等混合 (A1-1, A1-2, A1-4, A1-5)
: 0.15~0.65m (A1-1, A1-2, A1-4, A1-5)
: 1.6~2.1m (A1-1)
: 2.3~2.8m (A1-2, A1-5)
: 2.8~3.3m (A1-4)

5 調査結果

ベンゼンは土壌ガス調査の結果、調査4地点中3地点で検出された。また、絞込のため追加した1地点で最高濃度を示し検出された。

鉛は表層土壌調査の結果、調査4区画全てで土壌溶出量基準および土壌含有量基準に適合した。

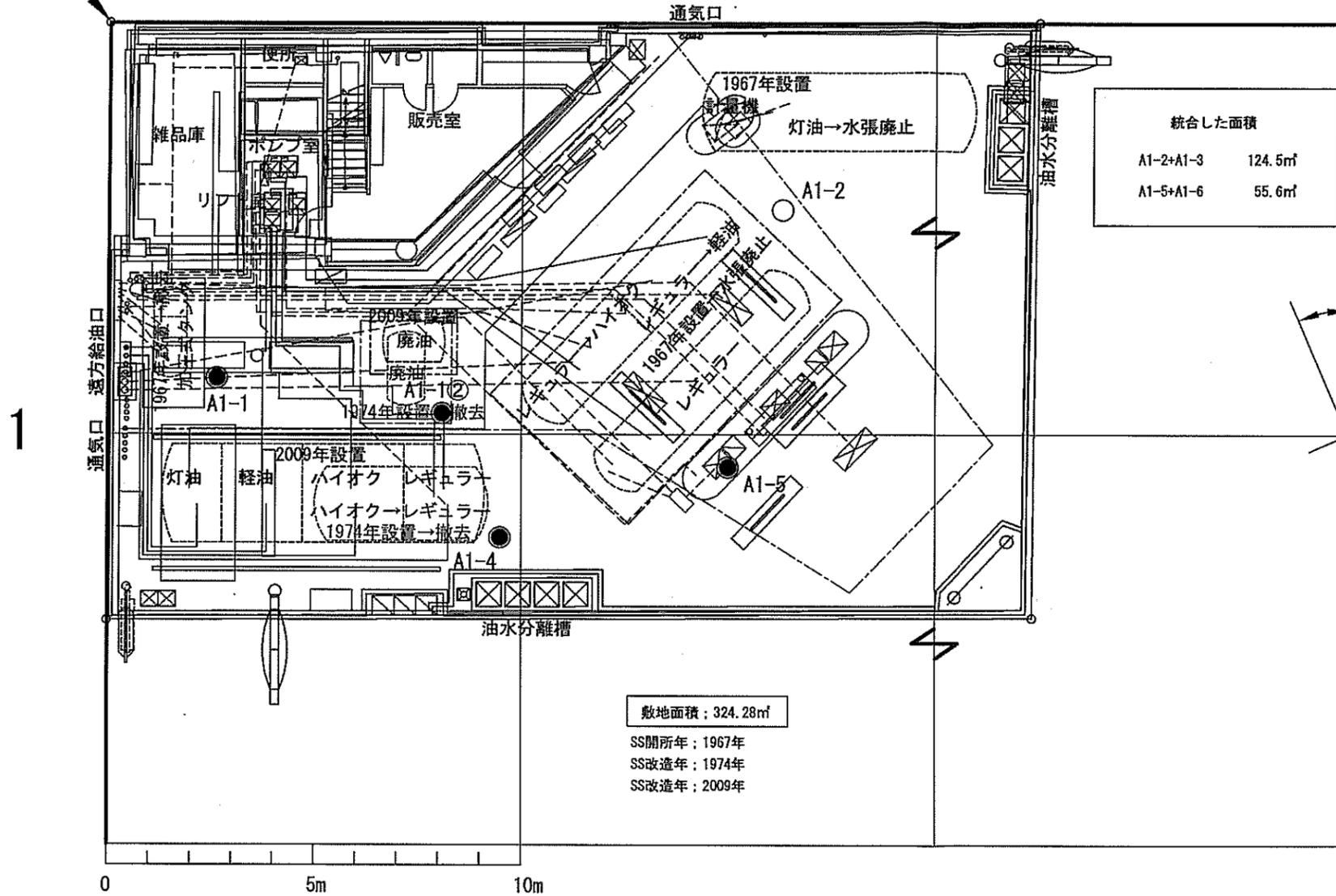
調査結果を図4、図5に示す。

6 評価

土壌汚染状況調査の結果、土壌ガスのベンゼンが検出されたため、詳細調査を実施する。

起点

A



統合した面積	
A1-2+A1-3	124.5㎡
A1-5+A1-6	55.6㎡

敷地面積：324.28㎡
 SS開所年：1967年
 SS改造年：1974年
 SS改造年：2009年

土壤ガス測定結果一覧

調査地点	土壤ガス
	ベンゼン (vol ppm)
A1-1	270
A1-1②	350
A1-2	不検出
A1-4	270
A1-5	47

※ 不検出とは定量下限値未満のことである
 ベンゼンの定量下限値は、0.05vol ppmである

30m格子での各区画番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- ※標準断面図使用：配管
- ※断面図使用：地下タンク
- ※配管底面直下の深度：0.15m
- ※1967年加圧式タンク底面直下の深度：1.6m
- ※1967年10KLタンク底面直下の深度：2.3m
- ※1974年廃油タンク底面直下の深度：1.8m
- ※1974年10KLタンク底面直下の深度：2.8m
- ※2009年廃油タンク底面直下の深度：2.5m
- ※2009年30KLタンク底面直下の深度：3.7m

A1-4：調査地点番号 5地点

⚡：統合した単位区画

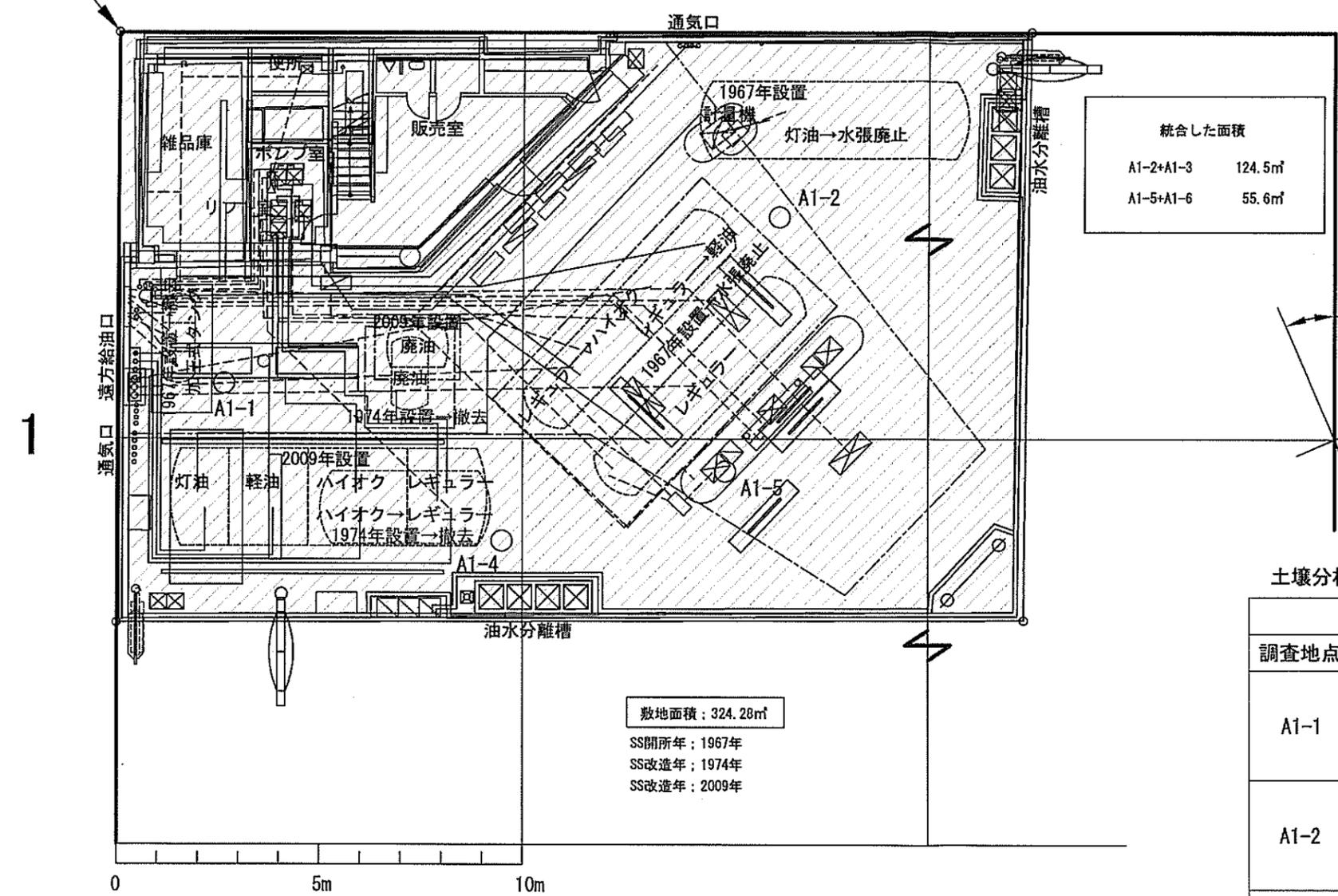
— 油配管
 - - - 旧油配管

- 土壤ガス(ベンゼン)が検出されなかった地点
- 土壤ガス(ベンゼン)が検出された地点

	調査機関	名称
	グリーンサーチ株式会社	自由ヶ丘給油所 土壤汚染状況調査
		図面名称
		図4 結果図(土壤ガス_ベンゼン)

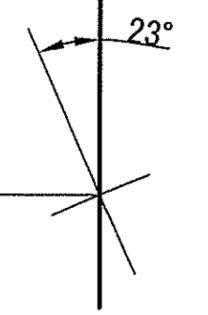
起点

A



統合した面積

A1-2+A1-3	124.5㎡
A1-5+A1-6	55.6㎡



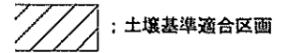
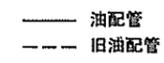
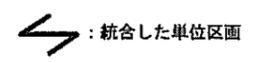
敷地面積：324.28㎡
 SS開所年：1967年
 SS改造年：1974年
 SS改造年：2009年

30m格子での各区分番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

※標準断面図使用：配管
 ※断面図使用：地下タンク
 ※配管底面直下の深度：0.15m
 ※1967年加圧式タンク底面直下の深度：1.6m
 ※1967年10KLタンク底面直下の深度：2.3m
 ※1974年廃油タンク底面直下の深度：1.8m
 ※1974年10KLタンク底面直下の深度：2.8m
 ※2009年廃油タンク底面直下の深度：2.5m
 ※2009年30KLタンク底面直下の深度：3.7m

A1-4：調査地点番号 4地点



土壤分析結果一覧

調査地点	種別	調査深度	鉛溶出量 (mg/L)	鉛含有量 (mg/kg)
A1-1	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	30
		0.15-0.65m	< 0.001	46
		1.6-2.1m	< 0.001	36
A1-2	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	40
		0.15-0.65m	< 0.001	17
		2.3-2.8m	< 0.001	15
A1-4	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	36
		0.15-0.65m	< 0.001	38
		2.8-3.3m	< 0.001	34
A1-5	土壌	0-0.05m, 0.05-0.5m	< 0.001	31
		0.15-0.65m	< 0.001	17
		2.3-2.8m	< 0.001	< 10
基準			0.01以下	150以下

調査機関		名称
グリーンサーチ株式会社		自由ヶ丘給油所 土壤汚染状況調査
		図面名称
		図5 結果図 (鉛及びその化合物)

青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所
詳細調査結果報告書

令和 5 年 1 月

調査実施者（指定調査機関）：グリーンサーチ株式会社

1 調査概要

1.1 事業場の名称

青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所

1.2 事業場の所在地（住居・地番表示）

（住居表示）東京都世田谷区奥沢6丁目31-1

（地番）東京都世田谷区奥沢六丁目59番6

1.3 事業場の面積（㎡）

敷地面積：324.28㎡

1.4 調査目的

東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」第116条に基づくガソリンスタンドの主要な施設の除却時について、東京都土壤汚染対策指針（平成31年東京都告示第394号）に基づき土壤汚染状況調査を実施した結果、土壤ガスベンゼンが検出されたため、土壤汚染の有無を確認するために調査を実施した。

1.5 指定調査機関等

- ・詳細調査を行った指定調査機関

グリーンサーチ(株)

指定調査機関指定番号：2003-3-2078

所在地：東京都品川区東品川3-32-34

電話番号：03-5769-2210

技術管理者：[REDACTED]（技術管理者証交付番号：第[REDACTED]号）

- ・土壤分析を行った機関

グリーンサーチ(株)

登録番号：埼玉県 第597号

事業区分：濃度

所在地：埼玉県さいたま市西区三橋6-70

計量管理者：[REDACTED]

1.6 調査期間

令和4年10月20日～令和4年12月24日：土壤・地下水採取

令和4年10月24日～令和4年12月27日：土壤分析

2 調査対象物質の選定

土壤汚染状況調査の土壤ガス調査結果より、次の物質を調査対象物質として選定した。

- ・ベンゼン

3 調査位置

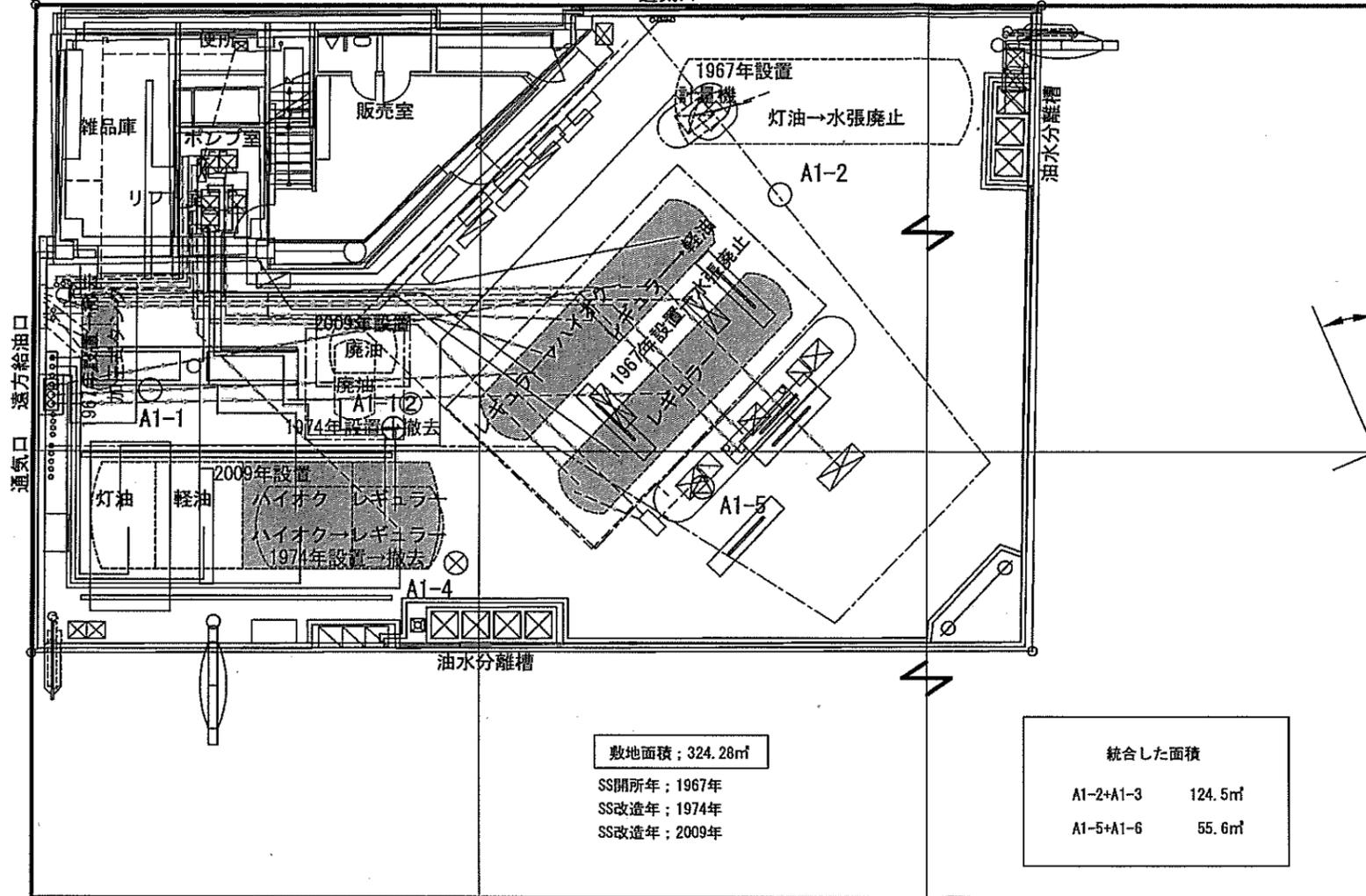
調査位置は、土壤ガスが最高濃度で検出された地点で土壤基準不適合であったため、土壤ガスが検出された全ての区画とした（図6参照）。

起点

A

通気口

1



23°

敷地面積 ; 324.28㎡

SS開所年 ; 1967年
SS改造年 ; 1974年
SS改造年 ; 2009年

統合した面積

A1-2+A1-3 124.5㎡
A1-5+A1-6 55.6㎡

30m格子での各区分番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- ※標準断面図使用 : 配管
- ※断面図使用 : 地下タンク
- ※配管底面直下の深度 : 0.15m
- ※1967年加圧式タンク底面直下の深度 : 1.6m
- ※1967年10KLタンク底面直下の深度 : 2.3m
- ※1974年廃油タンク底面直下の深度 : 1.8m
- ※1974年10KLタンク底面直下の深度 : 2.8m
- ※2009年廃油タンク底面直下の深度 : 2.5m
- ※2009年30KLタンク底面直下の深度 : 3.7m

A1-4 : 調査地点番号 3地点

⚡ : 統合した単位区画

■ : ベンゼン汚染のおそれがある施設

— 油配管
- - - 旧油配管

- ⊕ [土壌調査] A1-1②
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 0~0.05m, 0.15m, 0.5m, 0.65m, 1.0m, 1.6m, 2.0m, 2.1m, 3.0m, 4.0m, 5.0m, 6.0m, 7.0m, 8.0m, 9.0m, 10.0m
- [地下水調査]
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 地下水位と掘削底面との中間深度
- ⊗ [土壌調査] A1-4
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 0~0.05m, 0.15m, 0.5m, 0.65m, 1.0m, 2.0m, 2.8m, 3.0m, 3.3m, 3.7m, 4.0m, 4.2m, 5.0m, 6.0m, 7.0m, 8.0m, 9.0m, 10.0m
- [地下水調査]
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 地下水位と掘削底面との中間深度
- ⊙ [土壌調査] A1-5
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 0~0.05m, 0.15m, 0.5m, 0.65m, 1.0m, 2.0m, 2.3m, 2.8m, 3.0m, 4.0m, 5.0m, 6.0m, 7.0m, 8.0m, 9.0m, 10.0m
- [地下水調査]
 - ・分析項目 : ベンゼン
 - ・採取深度 : 地下水位と掘削底面との中間深度

		調査機関	名称
		グリーンサーチ株式会社	自由ヶ丘給油所 詳細調査
			図面名称
			図6 調査位置図 (ベンゼン)

4 調査方法

調査は土壤汚染対策法施行規則に基づき、分析方法は次の方法で実施した。

調査方法 : 深度方向土壤調査

調査地点 : 3地点(A1-1②, A1-4, A1-5)

分析方法 : 【土壤】

平成15年3月6日環境省告示第18号に定める方法
土壤溶出量基準(第二溶出量基準)

ベンゼン : 0.01mg/L以下 (0.1mg/L以下)

【地下水】

平成15年3月6日環境省告示第17号に定める方法
地下水基準(第二地下水基準)

ベンゼン : 0.01mg/L以下 (0.1mg/L以下)

採取深度 : 【土壤】

A1-1② ; 表層(0~0.05m)、0.15m、0.50m、0.65m、1.0m、1.6m、2.0m、2.1m、
3.0m、4.0m、5.0m、6.0m、7.0m、8.0m、9.0m、10.0m

A1-4 ; 表層(0~0.05m)、0.15m、0.50m、0.65m、1.0m、2.0m、2.8m、3.0m、
3.3m、3.7m、4.0m、4.2m、5.0m、6.0m、7.0m、8.0m、9.0m、10.0m

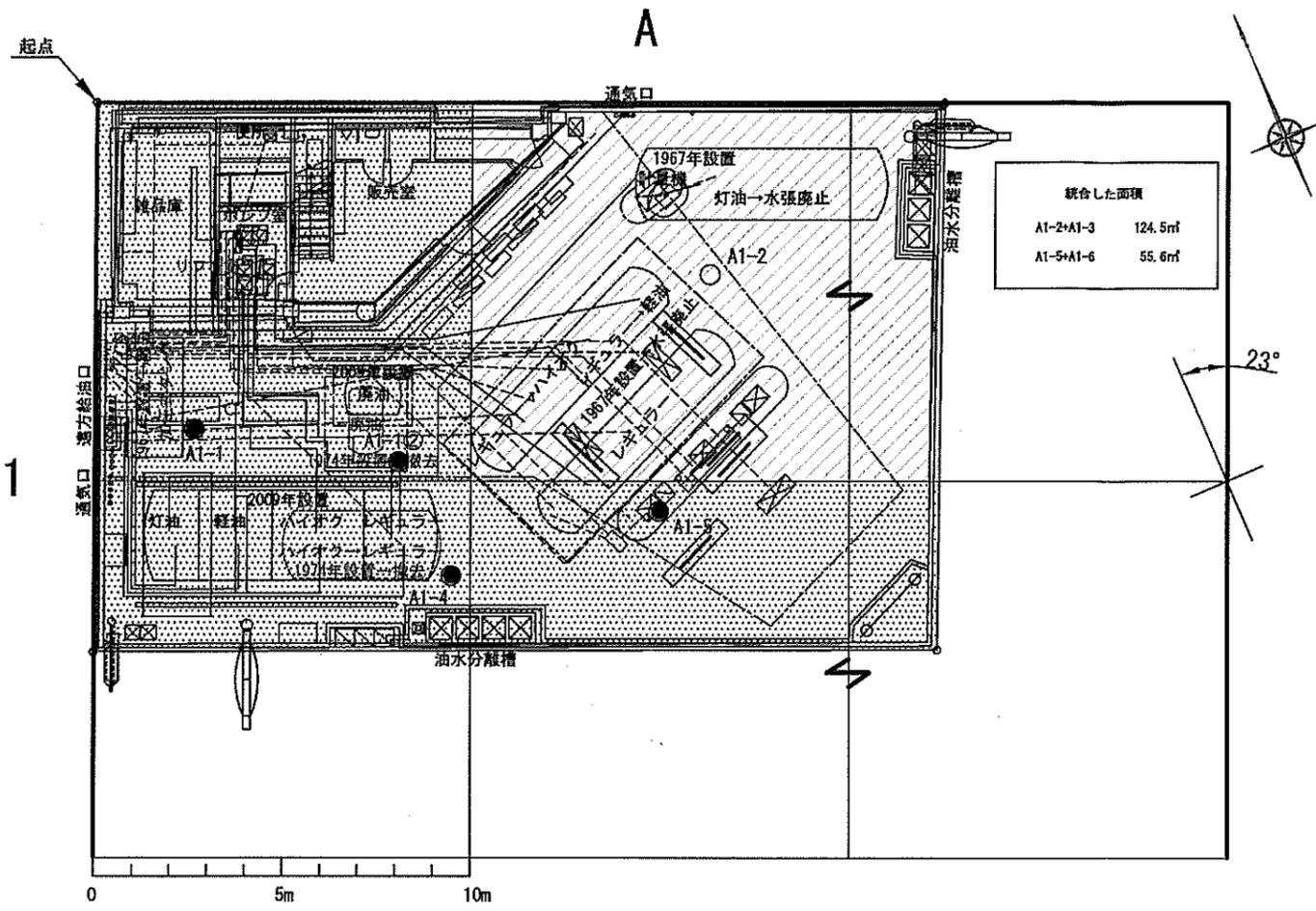
A1-5 ; 表層(0~0.05m)、0.15m、0.50m、0.65m、1.0m、2.0m、2.3m、2.8m、
3.0m、4.0m、5.0m、6.0m、7.0m、8.0m、9.0m、10.0m

【地下水】

地下水位と掘削底面の間深度

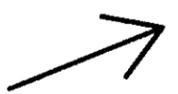
5 調査結果

土壤は3地点共、土壤溶出量基準および第二溶出量基準に不適合であった。地下水は3地点共地下水基準に不適合であり、2地点は第二地下水基準に不適合であった。調査結果を図7に示す。



敷地面積：324.28㎡
 SS開所年：1967年
 SS改造年：1974年
 SS改造年：2009年

想定される地下水の流向



- A1-4：調査地点番号 3地点
- ⚡：統合した単位区画
- 油配管
- - - 旧油配管
- ▨：土壤基準適合区画
- ▤：土壤基準不適合区画

30m格子での各区画番号

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- ※標準断面図使用：配管
- ※断面図使用：地下タンク
- ※配管底面直下の深度：0.15m
- ※1967年加圧式タンク底面直下の深度：1.6m
- ※1967年10KLタンク底面直下の深度：2.3m
- ※1974年廃油タンク底面直下の深度：1.8m
- ※1974年10KLタンク底面直下の深度：2.8m
- ※2009年廃油タンク底面直下の深度：2.5m
- ※2009年30KLタンク底面直下の深度：3.7m

土壤・地下水分析結果一覧

試料名		ベンゼン (mg/L)	
調査地点	種別	調査深度	
A1-1②	土壤	0-0.05m	0.053
		0.15m	0.030
		0.50m	0.014
		0.65m	0.014
		1.0m	0.25
		1.6m	0.037
		2.0m	0.009
		2.1m	0.006
		3.0m	0.013
		4.0m	0.002
		5.0m	< 0.001
		6.0m	< 0.001
		7.0m	0.003
		8.0m	< 0.001
		9.0m	< 0.001
		10.0m	< 0.001
		地下水	0.88m
A1-4	土壤	0.05m	0.005
		0.15m	0.017
		0.50m	0.024
		0.65m	0.016
		1.0m	4.2
		2.0m	0.14
		2.8m	0.15
		3.0m	0.050
		3.3m	0.035
		3.7m	0.033
		4.0m	0.014
4.2m	< 0.001		
5.0m	< 0.001		
6.0m	< 0.001		
7.0m	< 0.001		
8.0m	< 0.001		
9.0m	< 0.001		
10.0m	< 0.001		
地下水	0.75m	4.8	
基準			0.01以下

試料名		ベンゼン (mg/L)	
調査地点	種別	調査深度	
A1-5	土壤	0.05m	0.009
		0.15m	0.001
		0.50m	0.010
		0.65m	0.010
		1.0m	0.16
		2.0m	0.011
		2.3m	0.012
		2.8m	0.004
		3.0m	< 0.001
		4.0m	< 0.001
		5.0m	< 0.001
		6.0m	< 0.001
7.0m	< 0.001		
8.0m	< 0.001		
9.0m	< 0.001		
10.0m	< 0.001		
地下水	0.82m	0.022	
基準			0.01以下

※表中の赤字は基準不適合を示す
 ※表中の地下水の深度は地下水位を示す
 ※地下水の分析深度は地下水位と掘削底面との中間深度
 ※□は第二基準不適合を示す

調査機関	グリーンサーチ株式会社	名称	自由ヶ丘給油所 詳細調査
		図面名称	図7 結果図 (ベンゼン)

青木石油商事株式会社 自由ヶ丘給油所
地下水等の状況

令和5年1月

調査実施者（指定調査機関）：グリーンサーチ株式会社

調査対象地における地下水等の状況

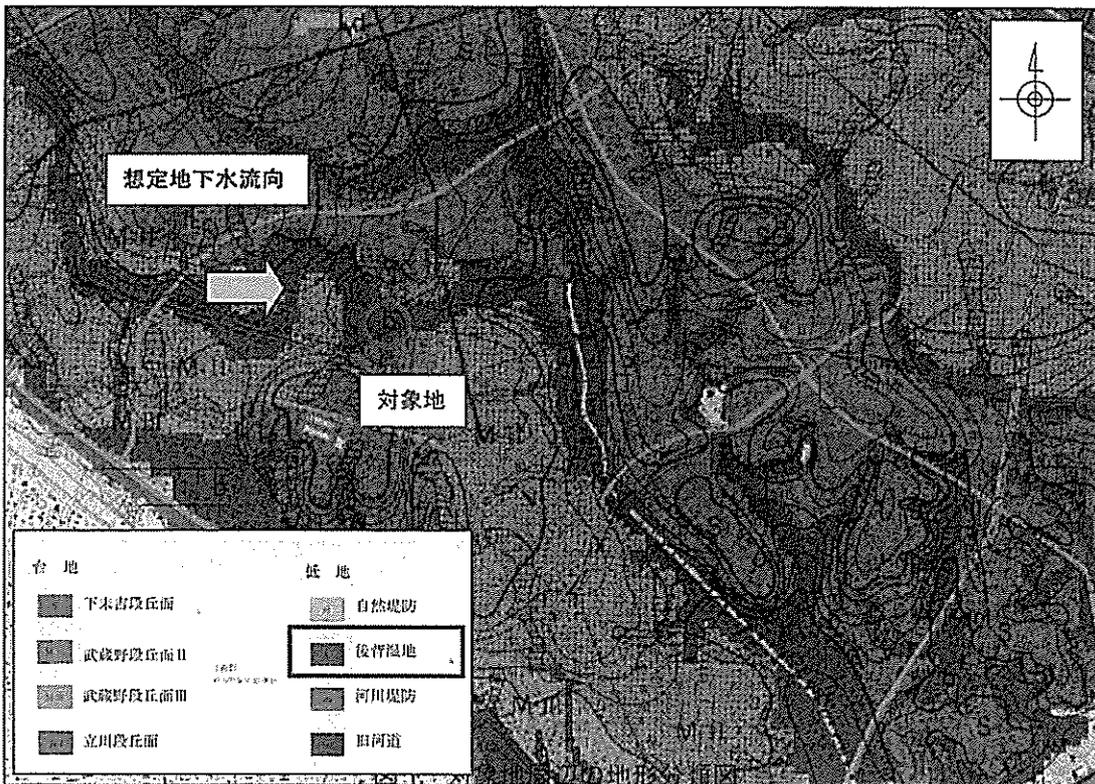
1. 対象地における地形地質概況

対象地は世田谷区奥沢6丁目に位置している。世田谷区は武蔵野台地の南縁部に位置しており、その地形は、区の北部および中央部はほぼ台地、区の南側境界付近は多摩川に沿って広がる氾濫低地となっている。このうち対象地は、台地部分が小さい河川や水路によって削られて形成された谷底低地（後背湿地）上に位置している。（図1参照）。

また、対象地における地質は、今回実施した深度10mまでのボーリング調査において、深度1.6～4.6mまでは礫混り砂主体の埋土であり、それ以深は深度6.5m程度まで有機質土層、深度9.8m程度までの砂礫層であり、その下位には砂質シルト層が分布している（図2参照）。なお、今回実施した3地点でのボーリングにおける孔内水位は深度0.75～0.88mであった。

2. 対象地付近における地下水概況

対象地付近における地下水は、周辺の地形状況から、大局的には西から東方向へ流下していると想定される。



(地形分類図 東京西南部 平成10年3月発行 東京都)

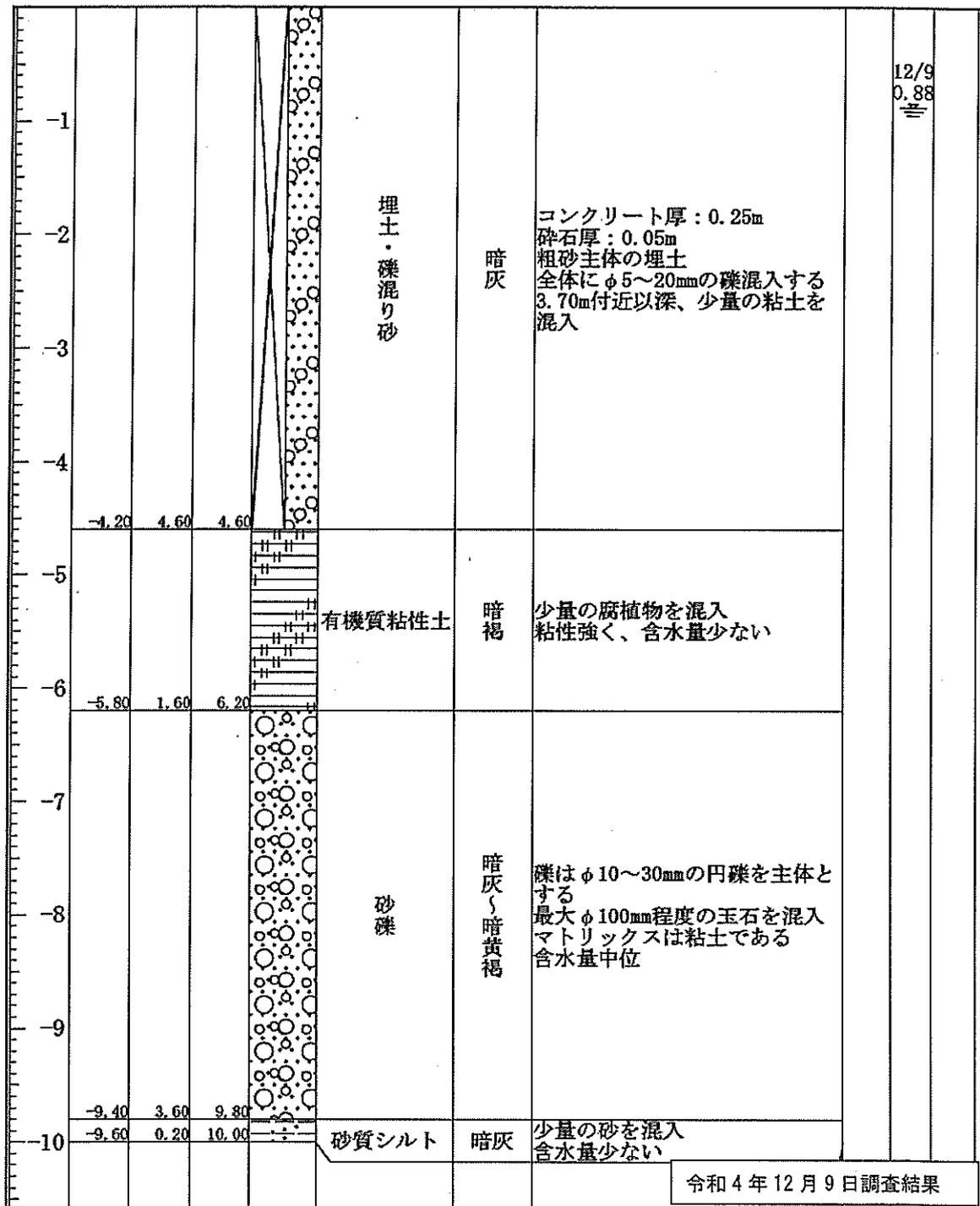


図2(1) ボーリング柱状図 (A1-1②地点)

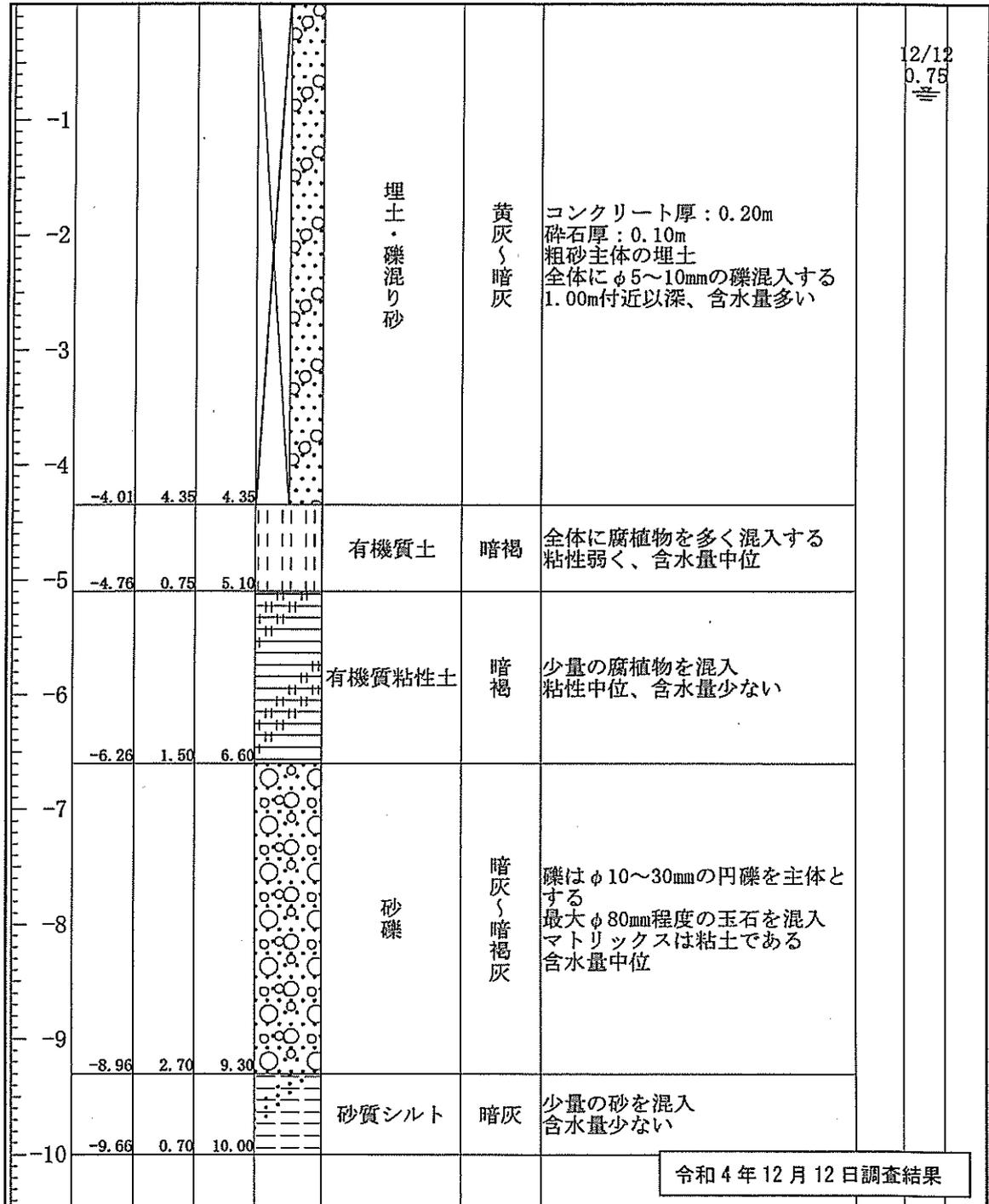


図 2(2) ボーリング柱状図 (A1-4 地点)

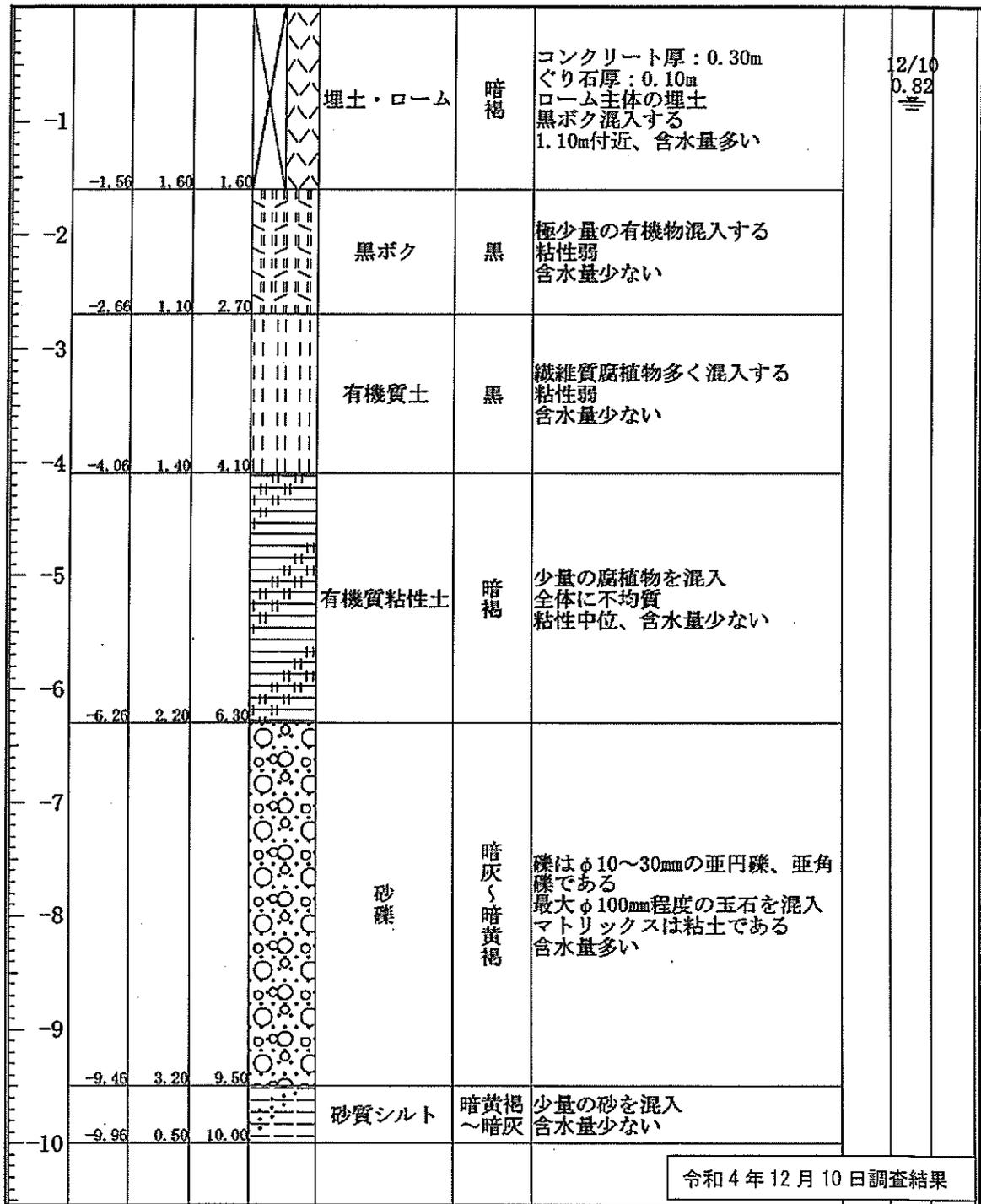


図2 ボーリング柱状図 (A1-5 地点)